

一般花壇の部

総 評

審査は8月2日～4日の3日間行いました。今年の一般花壇部門は、猛暑、長雨など激しい気象変化をものともせず、色鮮やかに花を咲かせている花壇が多かったことにまず感動しました。堆肥を活用した土づくりが続けられてきたことや水管理、花がら摘みなど、基本的な管理が徹底されていることが強く感じられました。しかし、中には株本体はとても大きく成長しているのに、切り戻しや花がら摘みが遅れて、咲き疲れた花が目立つ花壇や、脇芽の発生も少なく、今後の再生も厳しい花壇が見られました。コンクールの審査日にこだわらず、花の生育状況を優先して、早めの切り戻しを徹底し、若々しい脇芽を多く出させるなど、活力が長く続く花づくりを心掛けることが大切です。

もう一つ心に響いた特徴として、花壇づくりを楽しむ雰囲気がとても強かったことです。

杉林を切り開いて、斜面いっぱいには花を咲かせたり、写真ギャラリーの壁面をモッコウバラで埋め尽くしたり、さらには、電車から眺める人をも楽しませる、個性溢れる花づくりに出会えました。また、メインの花壇をみんなで完成させる取り組みも素敵ですが、自分の好みの花を、寄せ植えやハンギングバスケットで思い思いに咲き揃えたり、かわいい鉢を活用した花飾りも魅力的でした。こんな風にも花づくりを楽しむことができるのかと、改めて学ばせていただきました。

また、コンクールの審査中、今年ほどたくさんのアピールポイントを聞いたり、質問を受けたことはありませんでした。日頃、いかに熱心に花壇づくりに取り組んでおられるか、そして、その活動がいかに楽しいのかが、強く伝わってきました。

今年の花壇づくりで忘れてはならないことは、ウクライナの平和を願って、黄色と青色のデザインを取り入れたり、たくさんのヒマワリを咲かせることに思いを込める活動がとても多かったことです。皆さんの思いが一日でも早く届くことを強く願っています。

最優秀賞評

最優秀賞を受賞した南砺市の『北部花緑愛好会』の花壇はムクゲやキョウチクトウなど、背の高い花木を背景に、合掌造り、水車小屋からコキアとシロタエギクによる小矢部川の流れを組み合わせるなど、色鮮やかな花々で南砺の原風景が表現されていました。花壇の周辺にはライトグリーン系のコリウスとイポメアを組み合わせ、流れるような縁飾りを展開するなど、限られた空間を明るくダイナミックに表現する工夫にも感動しました。

また、サイド花壇のテーブルには十数個のミニ鉢を組み合わせた寄せ植えが飾られ、かわいい空間が演出されていました。さらに、花壇の足元をハツユキカヅラ、ヒメツルソバ、ヒューケラなどで引き締める心づかいはとても勉強になりました。ちょっとした足元も見逃せない魅力いっぱいの花壇でした。

ウクライナの平和を願い、ヒマワリの一本一本に願いを込めて植えられていることにも強く心が動かされました。

(審査委員長 山本 良孝)